

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日		宮崎 隆		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	歯科技工士専門課程	歯科技工士科午後部		平成22(2010)年度	-	平成30(2018)年度			
学科の目的	歯科技工からCGデザインまで、幅広い知識・技術・豊かな表現力を活かし、歯科医療業界で活躍できる人材となる。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	歯科技工士								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入	単位時間 112 単位	単位時間 37 単位	単位時間 9 単位	単位時間 58 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
95 人	64 人	7 人		11 %	9 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		12	人					
	■就職希望者数(D)		9	人					
	■就職者数(E)		9	人					
	■地元就職者数(F)		4	人					
	■就職率(E/D)		100	%					
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		44	%						
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		80	%						
■進学者数		2	人						
■その他									
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 歯科技工所									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	歯科技工士科午後部 https://www.dt.nddent.ac.jp/department/dept2/								
	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数			単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数			単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数			単位時間					
	うち必修授業時数			単位時間					

企業等と連携した
実習等の実施状況
(A、Bいずれか
に記入)

	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間

(B：単位数による算定)

総授業時数		112 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		12 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数		4 単位
うち必修授業時数		112 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	12 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	2 単位

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人
	計	5人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	5人

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

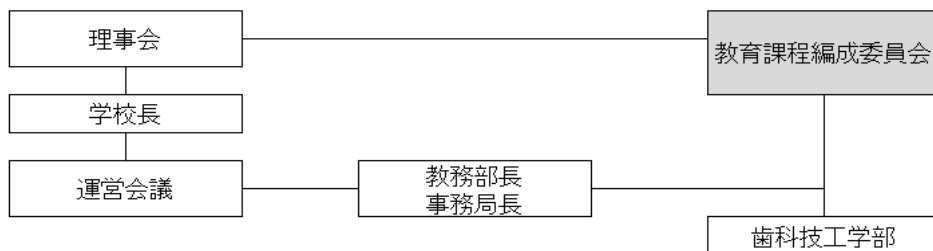
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、必要となる最新の知識・技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善及び改訂を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する「理事会」の直下に位置付けられ、教育課程編成委員会で出された意見は、運営会議にて改善案を起案し、理事会において審議され教科課程へ反映される。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山下 茂子	一般社団法人日本歯科技工学会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
大学 泉介	一般社団法人千葉県歯科技工士会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
白石 大典	有限会社湘南セラミック	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
吉田 久美子	アライン・テクノロジー・ジャパントリート合同会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
岩村 勇	学校法人 東京滋慶学園 評議員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮崎 隆	新東京歯科技工士学校 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
今井 リカ	学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
篠田 美和	新東京歯科技工士学校 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
印南 秀	新東京歯科技工士学校 教務部長代理	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	—
君塚 友見	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(4年)	—
馬場 知子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(5年)	—
西村 充剛	新東京歯科技工士学校 キャリアセンター長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、10月)
(開催日時(実績))

第1回 令和7年5月15日 18:00~20:00

第2回 令和7年10月23日 17:00~19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

歯科技工業界における、デジタル化(CAD/CAM)普及の加速化に伴い、デジタル人材を教育現場として育成していく必要がある。というご意見をうけ、最新の技術を提供できるよう、業界と連携しCAD/CAMに関する実習内容の見直しを行った。また、社会人基礎力を身につけられるよう、企業に協力していただき、就業体験(インターンシップ)をキャリアデザインの授業で実施、業界と連携して教育できるカリキュラムを構築している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床的実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

セラミック加工実習Ⅲでは、連携している歯科技工所の方に来校していただき、セラミックの築盛方法について臨床においても高度といわれる技術を指導していただく。評価は製作した完成作品により行っている。

CAD/CAM基礎では、連携している企業の方に来校していただき、歯科用CAD/CAMシステムの基本操作やデザインの手順について指導していただく。評価は提出作品と実技試験により行っている。

イラスト・デザインⅠでは、連携しているデザイン会社のデザイナーの方に来校していただき、CGデザインソフトの基本操作について技術指導をしていただく。提示したテーマについて自主制作した課題作品により評価している。

情報基礎技術では、連携しているシステム関連企業の方に来校していただき、コンテンツ制作やCADデザインに必要なPCの基本操作について指導していただいている。評価は制作した完成作品および、作品を用いたプレゼンテーションの内容

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
情報技術基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	情報リテラシーを理解し、パソコン等を安全に正しく利用するための方法や基本操作について理解することを目標とする。	株式会社ブレインスタッフコンサル
セラミック加工実習Ⅲ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	各種セラミックスを用いた補てつ物について、臨床的な審美技工の手技について理解を深めることを目標とする。	株式会社オーリアラ
イラスト・デザインⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。	イナマス合同会社
CAD/CAM基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴を理解することを目標とする。	アスパイアデンタルCADデザインwebスクール
	1.【校内】企業等から	歯科用CAD/CAMソフトを用い、応	アスパイアデンタルCADデザインwebスクール

CADCAM実践 I	の講師が全ての授業を主担当	用～臨床的症例まで実践的に学ぶ	アスハイアテンタルCADアサイン webスクール
------------	---------------	-----------------	--------------------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。

学部長、学科長中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通し必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第7回国際歯科技工学術大会	連携企業等:	日本歯科技工学会
期間:	1月25日(土)・26日(日)	対象:	専任教員
内容	Sending out the World! Fusion of Analog and Digital Technologies 世界に発信! アナログとデジタル技工の融合		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	新入職者研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	3月27日	対象:	教職員
内容	滋慶学園グループを知り、自分らしさを活かして仕事を楽しむ		
研修名:	生成AI研修	連携企業等:	滋慶学園 IT・DXセンター
期間:	3月27日～4月25日	対象:	専任教員
内容	生成AIの活用研修		
研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修 I	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	5月22日(木)	対象:	専任教員
内容	学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。		
研修名:	クラスマネジメント研修	連携企業等:	滋慶学園 教育改革センター
期間:	6月16日(月)	対象:	専任職員
内容	クラスへの支援とクラス運営について理解する。		
研修名:	FDマイクロレベル<学科長対象>	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	7月9日(水)	対象:	専任教員
内容	学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。		
研修名:	生成AI研修	連携企業等:	滋慶学園 IT・DXセンター
期間:	3月27日～4月25日	対象:	専任教員
内容	生成AIの活用研修		
研修名:	教育DX研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	7月16日(水)	対象:	専任教員
内容	データドリブンと生成AIを活用した学生支援案の作成を修得する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	専任教員講習会	連携企業等:	全国歯科技工士教育協議会
期間:	8月7日(木)、8月8日(金)	対象:	専任教員
内容:	専任教員が教育者としての資質向上を図るための基本的な知識・技術・態度を修得する。歯科技工学のカリキュラムプランニング、評価法の学習。		
研修名:	実技研修会 I	連携企業等:	全国歯科技工士教育協議会
期間:	8月18日(月)、8月19日(火)	対象:	専任教員
内容:	専任教員が教育者として実技指導を行う上での資質向上を図るための技術を修得する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	カウンセリング研修〈1次・2次〉	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	9月17日～9月25日	対象:	教職員
内容:	事例を交えて学生への支援策を学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

国家試験合格率向上のための、教育システムの改善を図る。学生が学校に通いたい、学びたいと感じられるような魅力のある将来像を産学連携を通じて未来をみせていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 八大	株式会社テクニカルセンター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
時田 将吾	歯科技工士科 I 部在校生保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者
木村 正	一般社団法人日本歯科技工所協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
河野 勉	大森歯科医師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域等委員
森 章	拓殖大学紅陵高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/information/>
 公表時期: 令和7年6月24日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。
 また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/information/>
 公表時期: 令和7年6月24日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			導入教育	3年間で学ぶカリキュラムの科目の目的を理解し、専門教育への移行をスムーズにすることを目標とする。	1年次前期	15	1		○	○	○				
2	○			情報技術基礎	情報リテラシーを理解し、パソコン等を安全に正しく利用するための方法について学ぶことを目標とする。	1年次前期	15	1		○	○			○	○	
3	○			CAD/CAM基礎	歯科用CADの概説を学び、歯科専用ソフトウェアの種類や特徴を理解することを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○			○	○
4	○			美術造形・デッサン	デッサンや造形、彩色を通して形態のとらえ方や表現力を身につけ、立体的形態の表現力および色彩感覚を養うことを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○			○	
5	○			外国語	歯科医療従事者として、円滑なコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。	1年次前期	15	1	○			○			○	○
6	○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識、歯科疾患・歯科治療の概要や歯科技工物についての概要および歯科に関する専門用語について理解することを目標とする。	1年次前期	15	1	○			○		○		
7	○			臨床歯科概論	歯科医療の臨床現場について多角的に学ぶ。感染症および感染症予防についても理解し実践できるようにすることを目標とする。	1年次後期	15	1		○		○	○	○		○
8	○			歯科技工士関係法規	歯科医療に関する全般的な知識、歯科に関する専門用語やチーム歯科医療での役割について理解することを目標とする。	2年次後期	15	1	○			○		○		
9	○			歯の解剖学Ⅰ	歯についての概説と永久歯の形態的特徴を学び、歯の種類と名称、歯の記号と歯式、歯の方向と部位を表す用語を理解する。	1年次前期	30	2	○			○		○		
10	○			歯の解剖学Ⅱ	筋の動きを中心とした口腔機能や歯の発生機構、硬組織および歯周組織について、構造と経年変化について理解する。	2年次前期	30	2	○			○		○		
11	○			歯の解剖学Ⅲ	口腔機能、特に頭蓋骨および頭部を中心とした筋肉の構造と機能について理解する。	3年次前期	15	1	○			○		○		
12	○			歯型彫刻・デッサンⅠ	歯型彫刻に必要な器具の使い方及び永久歯の形態的特徴について学ぶ。デッサンと彫刻作品の製作実習を通じて理解することを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○		○		
13	○			歯型彫刻・デッサンⅡ	歯型彫刻に必要な器具の使い方及び永久歯の形態的特徴について学ぶ。デッサンと彫刻作品の製作実習を通じて理解することを目標とする。	1年次後期	30	1			○	○		○		

14	○		歯型彫刻・デッサンⅢ	歯型彫刻に必要な器具の使い方及び永久歯の形態的特徴について学ぶ。デッサンと彫刻作品の製作実習を通じて理解することを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○		○					
15	○		歯型彫刻・デッサンⅣ	歯型彫刻に必要な器具の使い方及び永久歯の形態的特徴について学ぶ。デッサンと彫刻作品の製作実習を通じて理解することを目標とする。	2年次後期	30	1				○	○		○					
16	○		顎口腔機能学	下顎運動の概要を学び、咬合、運動路の理論を理解することを目標とする。	2年次前期	15	1		○			○		○					
17	○		顎口腔機能学演習	半調節性咬合器を用いて、フェイスボウトランスファー、平衡側の調節、下顎運動路の理論と技術を理解することを目標とする。	2年次後期	15	1		○			○		○					
18	○		歯科理工学Ⅰ	歯科材料全般のさまざまな機械的試験法をはじめ、高分子・レジン組成・性質・成形法について学び、歯科技工物製作において、科学的根拠に基づいた取り扱い技術、成形法を理解することを目標とする。	1年次前後期	30	2		○			○						○	
19	○		歯科理工学Ⅱ	歯科材料全般のさまざまな機械的試験法をはじめ、高分子・レジン組成・性質・成形法について学び、歯科技工物製作において、科学的根拠に基づいた取り扱い技術、成形法を理解することを目標とする。	2年次前期	30	2		○			○						○	
20	○		歯科理工学Ⅲ	金属全般の特性、歯科用金属材料の性質および加工法について学び、歯科技工物製作において、科学的根拠に基づいた取り扱い技術、成形法を理解することを目標とする。	2年次後期	30	2		○			○							○
21	○		歯科材料加工演習	各種材料、器具や機器の正しい取り扱い方や基本操作について、様々な実習体験を通して理解を深めることを目標とする。	1年次前期	15	1		○			○		○					○
22	○		有床義歯技工学Ⅰ	ヒトの生体に関する基礎知識及び、部分床義歯、全部床の構成要素、技工操作の手順を学ぶ。実習授業において活用できることを目標とする。	1年次後期	30	2		○			○		○					○
23	○		有床義歯技工学Ⅱ	ヒトの生体に関する基礎知識及び、部分床義歯、全部床の構成要素、技工操作の手順を学ぶ。実習授業において活用できることを目標とする。	2年次前後期	30	2		○			○		○					○
24	○		有床義歯技工学Ⅲ	金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。	3年次前期	15	1		○			○		○					○
25	○		有床義歯部分床実習Ⅰ	部分床義歯の製作について学び、サベーターの使用法やクラスプの製作について理解を深めることを目標とする。	1年次前期	60	2					○	○		○				○
26	○		有床義歯部分床実習Ⅱ	部分床義歯の製作について学び、維持装置の基本的な知識や製作技術について理解を深めることを目標とする。	1年次後期	30	1					○	○		○				○
27	○		有床義歯全部床実習Ⅰ	全部床義歯(総入れ歯)の理論と製作技術について学び、人工歯排列、歯肉形成、フラスコ埋没、流蟬について手順を理解することを目標とする。	2年次後期	30	1					○	○		○				○
28	○		有床義歯全部床実習Ⅱ	全部床義歯(総入れ歯)の理論と技術について学び、レジン填入、重合、掘り出し、削合、研磨について手順を理解することを目標とする。	2年次後期	60	2					○	○		○				○

44	○		小児歯科技工実習	小児歯科で用いられる、クラウンループ保険装置の目的、構成、製作方法について理解できることを目標とする。	2年次前期	30	1					○	○		○			
45	○		セラミック加工実習Ⅰ	各種セラミックス素材について、成分による特徴、製作法、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に理解することを目標とする。	3年次前期	60	2					○	○		○			
46	○		セラミック加工実習Ⅱ	各種セラミックス素材について、成分による特徴、製作法、またその製作にあたり必要となる知識を総合的に理解することを目標とする。	3年次前期	30	1					○	○		○			
47	○		セラミック加工実習Ⅲ	各種セラミックスを用いた補てつ物について、臨床的な審美技工の手技について理解を深めることを目標とする。	3年次前期	30	1					○	○				○	○
48	○		CAD/CAM実習Ⅰ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本デザインから応用デザインまでを段階的に学ぶ。	2年次前期	30	1					○	○		○			
49	○		CAD/CAM実習Ⅱ	歯科用CAD/CAMソフトを用いて基本デザインから応用デザインまでを段階的に学ぶ。	3年次前期	30	1					○	○		○			○
50	○		課題研究実習Ⅰ	習得した知識・技術を結集して自主的に調べ、卒業課題研究作品を製作することを目的とする。計画して実行する力を養うことを目標とする。	3年次後期	30	1					○	○		○			
51	○		課題研究実習Ⅱ	歯科技工士としての専門性を磨き、各自の得意分野を伸ばすことを目的とする。卒業課題研究としてポートフォリオを作成し発表することを目標とする。	3年次後期	30	1					○	○		○			
52	○		歯科技工実習Ⅰ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップの基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	2年次後期	30	1					○	○		○			
53	○		歯科技工実習Ⅱ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップ、全部床排列の基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	2年次後期	30	1					○	○		○			
54	○		歯科技工実習Ⅲ	歯のデッサン、歯型彫刻、ワックスアップ、全部床排列の基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次前期	30	1					○	○		○			
55	○		総合技工実習Ⅰ	補てつ物、矯正装置の製作に必要な基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「応用力」「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次後期	30	1					○	○		○			
56	○		総合技工実習Ⅱ	補てつ物、矯正装置の製作に必要な基礎技術力の反復トレーニングを行い、臨床現場で必要とされる「応用力」「スピード」、「正確さ」を身につけることを目標とする。	3年次後期	30	1					○	○		○			
57	○		ビジネスコミュニケーションスキル	仕事をしていく上で必要なコミュニケーションについて、また社会人基礎力について実践的に学ぶ。	1年次前期	15	1					○	○		○			○
58	○		キャリアデザインⅠ	企業見学や業界講演を通して、業界で求められる人材について理解し、卒業後のキャリアプランを計画することを目標とする。	1年次後期	15	1					○	○		○			
59	○		キャリアデザインⅡ	企業見学や業界講演、就業体験を通して、業界で求められる人材について理解し、卒業後のキャリアプランを計画することを目標とする。	2年次後期	15	1					○	○		○			○

60	○		キャリアデザインⅢ	企業見学や業界講演、就業体験を通して、業界で求められる人材について理解し、卒業後のキャリアプランを計画することを目標とする。	3年次前期	15	1		○	○	○	○	
61	○		CAD/CAM実践Ⅰ	歯科用CAD/CAMソフトを用い、応用～臨床的症例まで実践的に学ぶ	1年次後期	30	1		○	○		○	○
62	○		CAD/CAM実践Ⅱ	歯科用CAD/CAMソフトを用い、応用～臨床的症例まで実践的に学ぶ	2年次前期	30	1		○	○	○		
63	○		クラウン・ブリッジデザインⅠ	クラウン（臼歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	2年次後期	30	1		○	○	○		
64	○		クラウン・ブリッジデザインⅡ	ブリッジ（臼歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触、ポンティックについて、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	3年次前期	30	1		○	○	○		
65	○		クラウン・ブリッジデザインⅢ	クラウン（前歯部）の製作（アナログとデジタル）に関する理論と設計を学ぶことを目的とする。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について、症例に適した製作法と知識を総合的に復習し、理解を深めることを目的とする。	3年次後期	30	1		○	○	○		
66	○		歯科理工学総合	自費診療など高度な技工物の製作に用いる材料や新しい加工材料の種類・組成・性質・取扱い方法を学ぶ。	3年次前期	15	1	○		○	○		
67	○		有床義歯技工学総合	全部床義歯および部分床義歯について得た知識をもとに、応用的な設計や制作方法について理解することができる。	3年次後期	15	1	○		○	○		
68	○		歯冠修復技工学総合	陶材焼付金属冠やセラミッククラウンの製作に関する理論と技術について学び、要件や製作手順の理解を目標とする。	3年次後期	15	1	○		○	○		
69	○		歯の解剖学総合	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織について、構造と経年変化を理解する	3年次前期	15	1	○		○	○		
70	○		総合学習Ⅰ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	1年次前期	15	1	○		○	○		
71	○		総合学習Ⅱ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	1年次後期	15	1	○		○	○		
72	○		総合学習Ⅲ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	2年次前期	15	1	○		○	○		
73	○		総合学習Ⅳ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	2年次後期	15	1	○		○	○		
74	○		総合学習Ⅴ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	3年次前期	15	1	○		○	○		

75	○		総合学習Ⅵ	専門基礎科目・専門科目について授業で学んだことを振り返り、総合的に理解し知識を定着させることができる。	3年次前期	15	1	○		○	○							
76	○		総合歯科技工学Ⅰ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	2年次後期	30	2	○		○	○							
77	○		総合歯科技工学Ⅱ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次前期	60	4	○		○	○							
78	○		総合歯科技工学Ⅲ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次後期	60	4	○		○	○							
79	○		総合歯科技工学Ⅳ	歯科技工士に必要な知識を総合的に学び、知識を定着させることを目標とする。	3年次後期	60	4	○		○	○							
80	○		イラスト・デザインⅠ	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○						○	○
81	○		イラスト・デザインⅡ	IllustratorをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的かつ段階的に学ぶ。	1年次後期	30	1			○	○						○	○
82	○		モデリング&デザインⅠ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○						○	○
83	○		モデリング&デザインⅡ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○						○	○
84	○		モデリング&デザインⅢ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次後期	30	1			○	○						○	○
85	○		モデリング&デザインⅣ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	1年次後期	30	1			○	○						○	○
86	○		モデリング&デザインⅤ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	2年次前期	30	1			○	○						○	○
87	○		モデリング&デザインⅥ	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。	2年次前期	30	1			○	○						○	○
合計						91	科目	112 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：学年ごとに必須単位数を修得し進級する。		1 学年の学期区分 前・後 期	
履修方法：全科目履修で卒業となる。		1 学期の授業期間	25 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。